

## 農業への努力

その二…浮島沼の開発

昭和五十六年八月五日号

### 昭和放水路

昔、浮島沼は、全国でも有数な湿地帯として知られていました。

大雨や台風のたびに、沼は大きな湖のようになってしまいました。

今から約五十年ほど前、原の増田平四郎は、この浮島沼を開発するため放水路を造ることを考えました。

放水路を造り、沼の水を直接海へ流すことよって、田を広げ、水害からも田を守ろうとしたのです。

しかし、平四郎の考えは村人から反対され、



国道一号線から見た昭和放水路

協力してもらえませんでした。葦山の代官所へも何回となく訴え続けました。

そして、初めて訴えを出してから二十年後の一八六六年に、ようやく代官所から許可をもらい、工事を始めました。一年半後に放水路は完成。

しかし、その年の高波によって、あとかたもなく、こわされてしまいました。その後、再び直すことはできませんでした。

それから、六十八年だった昭和十二年、同じ場所に放水路が造られることになったのです。それが現在の昭和放水路です。

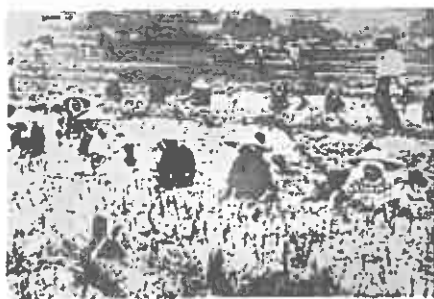
## どろ沼の田んぼ

久松 清さん(川尻町)

この辺の田んぼは、昭和放水路ができる前

は、大雨になると愛鷹山からの水と、海からの海水で、どろ沼となっていました。

舟に乗って、稲かりをしたこともあるよ。工業団地の裏に「水門めがね」があり、海水を防ぐことと、排水の役目をしたんだ。放水路のおかげで、水はけがよくなった…。



昔の田植え